

サトコジファイル

Satokoji

File

File NO
20
2023.2

福生市議会議員

佐藤こうじ

議員活動レポート

福生市議会議員

佐藤こうじが掲げる

10の「生きがい」

を生むまちづくり

2期8年の

取組みとこれから

福生 **生きがい**
都市宣言!

福生 **生きがい**
都市宣言!

「生きがい」が

平成31年4月、「福生生きがい都市宣言」をスローガンに、サトコジファイル5号で政策（マニフェスト）を掲げ、2期目の議員活動を始めることができました。人が生きていく上で欠かせない「生きがい」を見つけ、地に足をつけ、生きていくことができるまち「福生」。その実現に向けて10+1のカテゴリーを設け、73の政策項目を掲げました。この4年間、自ら掲げた政策に基づき、力を傾けてきました。実現できたもの、継続的に訴えていくもの、そして、残念ながら力及ばず、今期は実現できなかったものもあります。それらを踏まえ、新たな項目や10+2「感染症対策」なども設けました（全83項目）。本冊子、Satokoji File NO.20では、政策（マニフェスト）への取組みを一つひとつ整理し、ふり返りながら文章を書きました。定例会一般質問、委員会質疑、視察、調査研究等の議会活動及び議員活動など、政策に対する着手状況の一つひとつ掲載していますが、より詳しい内容はnote（ブログ）に掲載しています。下記QRコードからお進みいただき、ご確認いただければ、大変うれしく、励みになります。私は時折、癒しの詩人といわれる坂村真民の詩『あとからくる者のために』を思い浮かべます。私の心の糧となっているこの詩は、「未来を受け継ぐ者たちのために」みんながそれぞれ自分のできる何かをしていこうと静かに語りかけている詩です。この4年間で世界は大きく変わりました。まさに歴史が変わる時であり、日本もそして福生市もその厳しい影響下にあります。今、目の前にある課題解決に向けて取組むとともに、将来を見据え、引き続き、より広く、より深く、より根源的に考え、「未来を受け継ぐ者たちのために」も力を尽くして参ります。皆様のお声をお聞かせください。



サトコジファイル5号



note (ブログ)



お問い合わせ

生まれるまち、福生へ。



なぜ「生きがい」なのか

～幸せよりも大切な 生きる目標と前進する理由～

私は、常に福生をどのような「まち」にしていくべきか、自分自身に問い続け、また地域の皆さんの想いを聴きながら、多くの方が幸せを実感しながら生きていける「まち」にしたいとの思いを持って活動してきました。しかしながら、国連の発表によると日本人の幸福度は物質的に豊かな先進国の中でも最下位の方に位置しているそうです。事実、幸せを感じることができずに希望を失い絶望し、孤独のなか自ら命を絶つ若者や高齢者もいます。これはなぜか？ある時この疑問の答えとなる、女性作家のスピーチを知ることができました。それによると・・・これは幸せが欠けているのではなく、他の何かが欠けているからなのです。それ

は「生きがい」が欠けているのです。人生において、幸せになることを目標に生きるよりも、「生きがい」を求める方が、より満たされるのです。「生きがい」は人と人との結びつきの中に生まれ、「生きがい」により生きる目標が生まれ、前進する「理由」を与えてくれます。「生きがい」をもって人生を渡ることができれば、たとえ厳しい状況になっても、生き抜くことができる。よい時には一層充実して、自らを輝かせて生きていくことができる。これは私の実感です。人が、市民の誰もが「生きがい」を見つけ、「生きがい」をもって、地に足をつけ、生きていくことができるまち「福生」のために、私はこれまで以上に力を尽くします。



7 まちづくり

人口が減っても活力と魅力あるまちを維持し、市民が「生きがい」を見つけ充実した生活をおくるためのまちづくりを進めています。

詳しくはコチラ



● 交流人口を増やし賑わいを創出する駅周辺の開発整備

福生駅西口再開発については市民の合意に基づく複合施設の設置、富士見通りの拡幅については安心して楽しめる飲食店街の形成など、様々な角度からの質問を通じ、市民目線で訴えています。居心地がよく歩きたくなるまちづくり、「ウォークアブル^{※1}なまちづくり」を提案しています。

※1) 「歩く」を意味する「walk」と「できる」の「able」を組み合わせた造語で、文字通り「歩きやすい」「歩きたくなる」「歩くのが楽しい」といった語感をもつ。それまでの車中心だった都市から、歩くことが中心の都市へシフトするための都市戦略用語。

● 交通弱者の増加に備えた公共交通網の更なる充実

広域連携の視点から地域公共交通の充実を訴えています。愛知県豊明市の「乗り合い送迎サービス」を一般質問で紹介。その他、勉強会の開催や先進的な取り組みを行っている自治体の議員と意見交換を行っています。

● 学校を核とした公共施設の複合化・集約化

生涯学習社会の形成、公共施設の総量抑制^{※2}、小中一貫校など、今後の教育構想の観点から多くの質問を行っています。

※2) 今までに建設された公共施設は老朽化に伴う立て替えや大規模修繕の時期を迎えており、施設の総量抑制や複合化など、機能の最適化により、財政負担を軽減するとともに、人口減社会への適応が求められている。

● 緑と水を活かしたまちづくりの推進

富士見通りの拡幅事業では、地域が望む魅力的なシンボルツリーとなる街路樹としてオリーブの選定を訴えています。熊川分水保全の推進を決算審査や会派から要望しています。

● 東福生駅・熊川駅のバリアフリー化

地域の念願だった東福生駅のバリアフリー化に向けた計画が進みます。予算・決算審査などで着実な推進を訴えています。



2 市民協働

市民が「生きがい」をもって生き生きと活動するための仕組みづくりを更に進め、協働のまちづくりの深化をはかります。

詳しくはこちら



● 町会・自治会等の地域活動団体への支援

市からの支援を継続すること、また、コロナ禍における町会・自治会の効果的な取組みを、他の町会・自治会が積極的に取り入れるための後押しを市が行うよう要望しています。

● 様々な分野での市民活動団体間および市との協働促進

予算・決算審査などで支援を要望するとともに、小地域活動※3にも参加。社会福祉協議会FVAC（ふっさボランティア・市民活動センター）の運営委員を拝命、協議会の場での意見交換に基づきボランティア団体の要望を市に届けています。

※3) 住みなれた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、住民同士が支え合い、助け合う活動。

● 若者のまちづくりへの参画推進

あらゆる機会に若い世代が参加するまちづくりの推進を訴えています。地域懇談会「福生のハコモノを考えよう」では地元高校の生徒が参加しました。社会福祉協議会FVACでは、若者が参加しやすい事業やイベント等の開催を訴えています。

● NPOやコミュニティビジネスの設立・活動促進

「労働者協同組合法（ワーカーズコープ法）※4」を研修で学びました。新たな市民活動団体の立ち上げに資する取組みにつなげます。 ※4) 働く人が自ら出資して運営に携わることができる「協同労働」という新しい働き方を実現する法律（令和2年新設）。

● 寄付を活かしたまちづくりの更なる推進

予算・決算審査などで寄付をしやすくする取組みや寄付の見える化を提案しました。FVACの協議会においても寄付により、事業を行う文化を形成するよう要望しています。

● 市民のアイデアを市政に活かす制度の創設

福生駅西口再開発で、複合施設を設置するにあたり、利用者や市民の将来的なニーズを的確に把握する手法としてサウンディング型市場調査の導入を提案。市は民間の活力を活用したニーズ把握の手法の一つとして導入。



3 議会改革

「生きがい」ある市民生活を守るためスピード感をもって課題に対応し、二元代表制にふさわしい政策力と発信力のある議会づくりへ更なる改革を推し進めます。

詳しくはコチラ



● 議会運営の見直し

大規模災害が発生した際に、迅速かつ適切に対応するための『福生市議会災害対応方針』が令和2年7月に策定。特別委員会で「福生市議会感染症対応マニュアル」の策定を提案し実現。令和4年6月24日から適用。

● 議会の情報発信および公開機能の強化

議会だよりをリニューアルするとともに、FacebookやTwitter等のSNSによる情報発信を提案し実現しました。

● 議員の少数精鋭化の促進

議員定数の削減に賛成の立場から意見を述べましたが、反対が多く、今期は断念。引き続き訴えます。

● 議員による政策条例の提案

議会基本条例※5を制定し、通年議会※6を実現しようとしたが、反対が多く、今期は断念。視察や勉強会を通じて機運醸成に努めます。

※5) 議会及び議員の活動の充実と活性化を図ることを目的として議会運営に必要な基本事項を定めた条例。

※6) 議会の活動可能な期間である「会期」について、これまでのように定例会、臨時会の区分を設けず、通年（1年間）として閉会期間をなくし、議会の判断で必要に応じて本会議・委員会を開催できるようになり、災害などの突発的な事案や緊急の行政課題への速やかな対応が可能となる。

● ICTによる議会運営の効率化

特別委員会等で検討を重ねたタブレット端末iPadの導入が実現。一連の取組みが評価され、第17回マニフェスト大賞※7で『エリア選抜』に選出されました。

※7) 地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取組みを募集し表彰するもの（マニフェスト大賞実行委員会主催）。

● 議員活動の見える化

活動レポートサトコジファイルの発行、SNS、ホームページ運営や立川ラジオI.S.M(イズム)にレギュラー出演し議員活動の紹介を行っています。



4 行財政改革

市がもつ資産を最大限に活かし、課題解決と地方創生を進める効率の良い組織づくりと、職員が「生きがい」をもってより福生のために働ける環境づくりを進めます。

詳しくはコチラ



● 効率的・効果的な組織運営の強化

一般質問や特別委員会でコロナ対応業務に関して職員の負担が一部に偏らない組織体制の構築と組織間の応援体制の強化を訴えました。

● 他市町村との連携強化

公共施設の総量抑制や地域公共交通の充実、災害廃棄物の処理などについて市単独ではなく広域連携の視点をもって取組むよう一般質問等で訴えています。広域公共交通検討会をあきる野市、羽村市の議員らと立ち上げ調査研究中。研究成果を政策化し、行政に提案していきます。

● 外国人への対応の強化

多文化共生の視点の重要性、「やさしい日本語※8」等の活用を訴え、市のHPをはじめ様々な形で、多言語対応や「やさしい日本語」の導入が実現してきています。※8) 外国人等にもわかるように配慮して、簡単にした日本語のこと。

● 市有資産の利活用促進

広域利用を見据えた公共施設の使用料・手数料の見直し、文化資産の活用を一般質問や予算・決算審査で訴えています。

● 市のあらゆる媒体を活用した広告事業の拡大

動画の活用について、いち早く一般質問や予算・決算審査で積極的に進めるよう訴えています。市のPRや行政サービスにおける動画の活用が進んでいます。

● スペシャリストの採用及び育成

専門化する市の業務に十分に対応できるように、スペシャリストの採用を一般質問や予算・決算審査で訴えています。土木・建築・福祉・心理職の採用が行われています。

● 多様な主体（企業・大学等）との連携強化

一般質問で企業のCSR※9の取組みに注視し、積極的に連携をするよう、また大学全体との包括連携協定を結ぶことによる、職員の政策能力の向上や研究成果の施策へ反映などのメリットを訴えています。 ※9) Corporate Social Responsibility 企業の社会的責任



5 環境都市

豊かな緑と水に囲まれた清潔で美しい環境に「生きがい」をもって暮らし続けるための循環型社会の形成に向け、様々な施策を提案します。

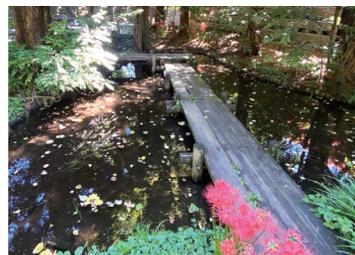
詳しくはコチラ



● 生物多様性を守るための環境保全・公害対策

NPO法人経営倫理士協会の資格を取得。企業の社会的責任CSR※10、ISO26000※11、ESG投資※12やSDGS等について学びました。今後の活動に活かします。

※10) corporate social responsibility (企業の社会的責任)の略語 ※11) ISO (国際標準化機構:本部ジュネーブ)が2010年11月1日に発行した組織の社会的責任に関する国際規格 ※12) 従来の財務情報だけでなく、環境 (Environment)・社会 (Social)・ガバナンス (Governance) に配慮している企業を重視・選別して行なう投資。



● ごみ対策の強化

地元飲食業組合と協力して定期的に美化活動を行っています。一般質問や予算・決算審査などで対策強化を要望。西多摩衛生組合環境センターの視察を行いました。



● 自然体験や環境教育の推進

NPO法人自然環境アカデミーや木育※13教室などの主催者らとの意見交換を行っています。プレイパークの充実を要望しています。

※13) 子どもをはじめとするすべての人が「木とふれあい、木に学び、木と生きる」取組み。



● 有害生物対策の強化

アライグマやハクビシンの被害だけでなく、クビアカツヤカミキリ※14による桜や梅の被害に対し、専門家の指導をもとに広域連携で対策を講じるよう訴えています。

※14) サクラやモモ、ウメ、スモモなどのバラ科樹木に寄生し、幼虫が樹の内部を食べて枯らしてしまう外来のカミキリムシ。

● 片倉跡地を含む熊川分水の保全促進

予算・決算審査で熊川分水をはじめとした景観資源の保全に関して、市民との協働による維持管理の推進を要望しています。

● CO2削減の推進

一般質問を通じて、広域連携による取組みや企業のCSRの取組みとの連携などを視野に入れ、環境問題に取組むよう訴えています。

● 災害廃棄物処理対策の推進

災害廃棄物の仮置き場の選定やその処理など、広域連携の視点が重要。災害廃棄物対策マニュアルの早期策定をいち早く一般質問で訴えています。

6 産業・観光振興

「生きがい」が見つかるまち福生の魅力を全国に発信する仕組みづくりと、西多摩の玄関口という利点を最大限に活かした産業・観光振興策を推進していきます。

詳しくはコチラ
↓↓↓



● シティセールスの更なる推進

より見やすく分かりやすい観光案内板になるよう要望し、実現しました。郷土愛を育むよう地産地消を重視した学校給食を要望しています。

● ソーシャルメディアを活用した市民による福生の魅力発信

特別委員会の提言の中で動画を作成、活用する文化を形成し、市の魅力を広く内外に伝えるよう、市に要望。動画の活用が増加しています。

● 地域資源、美術工芸品、古民家等の活用による観光促進

市の所蔵する刀剣や絵画などを観光振興に生かすとともに、古民家の活用を進めるよう一般質問などで要望しています。

● 玉川上水遊歩道の整備促進

市からは整備を進めることは現時点では難しいとの回答ですが、「玉川上水遊歩道を考える会」と意見交換重ねるとともに会派からも引き続き要望していきます。

● 空き店舗対策の推進

予算・決算審査での質問を通じ、また会派の要望により、空き店舗活用補助金による支援が強化されています。

● 都市農業の推進

予算・決算審査で支援を要望しています。福生の落花生「はっ!ぴー☆ナッツ」のPR推進、市民と農家のコミュニケーションを図る「地元新鮮野菜収穫ミニ調理教室体験セミナー」が企画。



● 創業支援

予算・決算審査で空き店舗活用補助金と創業支援事業との関連付けによる効果について質問。商工会や多摩信用金庫と連携しセミナー等の支援事業が開催。

● 産業振興

地元飲食業組合の取組みを支援し、意見交換を行うとともに、商工会との勉強会で意見交換を行い、要望書の提出につなげています。



7 子育て

地域全体で子育てを支援する仕組みづくりを推進し、喜びを感じながら「生きがい」をもって子育てができる環境整備を推し進めます。

詳しくはコチラ

↓↓↓



●切れ目のない子育て支援

特別委員会等で「子育て世代包括支援センター※15」等の更なる充実を要望。保育園や幼稚園への心理職専門家による巡回相談などが充実。発達に課題がある子どもについて、保育協議会と幼稚園連合会の「専門的療育機関の設置を求める意見書」の提出をサポートし、一般質問で強く要望。市は設置に向け動き出しました。

※15) 母子保健法に基づき市町村が設置するもので、保健師、助産師などの専門知識をもったスタッフが、妊娠、出産、子育てに関する様々な相談に対応し、必要に応じて支援プランの策定や地域の保健医療福祉の関係機関との連絡調整も行い、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する。

●産後ケアの更なる推進

子育ての情報交換や専門家のアドバイスを受けることができる「子育てひろば※16」について、コロナ禍でもできる限り開催するよう提言書により要望しています。※16) 0～3歳を中心とした乳幼児とその保護者が、一緒に遊んで過ごせる場所(地域子育て支援拠点)。

●子育て応援サイトやアプリの充実

スマートフォンで確認できる「ふっさ情報アプリ『ふくナビ』」の「子育て」情報では、各種子育て支援事業のほか、保育園の空き状況などを掲載。更に市のホームページで「子育てするならふっさ情報サイト『こふくナビ』」が展開。



●多世代で子育て支援を行うための仕組みづくり

子育ての悩みや出産への不安などを相談できる場、子育てサロン※17「はとぼっぼ」を主催している民生委員・児童委員と意見交換。ボランティアスタッフの高齢化や人材不足などの課題解決に向け研究中。

※17) 子育てをしている保護者やその子供が同じような仲間と交流できる憩いの場。

●児童虐待防止の推進

市民から情報を得て迅速に対応。児童虐待に繋がらないよう、孤独な子育てにならないための広場事業や保育所への専門家の巡回相談、学校のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の支援体制強化が図られています。



●放課後の子どもの居場所づくりの更なる推進

児童館主催の地域懇談会での意見交換に基づき市政に声を届けています。国の施策もあり、初当選から訴えていた「学童クラブ」と「ふっさっ子の広場」との一体型事業が推進。学校内学童クラブの施設整備を進め、ふっさっ子の広場との連携強化が進んでいます。



8-1 学校教育

学び続けるために必要な基礎学力の定着を図り、「生きがい」をもって何度でもチャレンジできる強い心を育むとともに、責任ある市民となるための教育を推し進めます。

詳しくはコチラ
↓↓↓



●国語力をはじめとする基礎学力の向上

学力の向上に国語力の充実が欠かせません。多くの一般質問を通じて国語力の向上や読書推進を訴えています。要望によりジュニア司書講座（子ども司書※18）が実現へ。※18 読書のおもしろさを学校や家庭に広めるリーダー役。

●コミュニティ・スクールを活かした地域総がかりによる学校支援

全校にコミュニティ・スクール※19制度導入が実現！今後はその充実が課題です。各校の取組みを共有するため、コミュニティ・スクール総会の開催を要望し実現。※19 学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取組むことが可能となる「地域とともにある学校」。



●学区の再編

学区の再編を必要とする学区域について質問を重ね「福生市立学校の在り方検討委員会」の中で検討することが決まりました。

●教員の指導力向上

全生徒に貸与されたタブレット端末を有効に活用するための教職員研修の充実、教職員の指導力の向上を訴えています。

●学習支援の強化

コミュニティ・スクールによる地域の人材を生かした学習支援が進んでいます。特別委員会で要望した受験生チャレンジ支援貸付事業※20は、広報の強化により制度の利用件数が増加。

※20 一定所得以下の世帯の、進学予定のある中3、高3（それに準じる未成年）が利用する学習塾などの受講料や、受験料について貸付（無利子）を行う支援事業。

●不登校・いじめ対策の強化

市民相談に応じるとともに行政や専門機関へつないでいます。委員会や特別委員会でスクールソーシャルワーカー※21やスクールカウンセラー※22の資質・能力、技術の向上と支援体制の強化を訴えています。

※21 児童・生徒が生活の中で抱えている様々な問題の解決を図る専門職。
※22 学校現場で児童や生徒、保護者、教師の相談や支援を行う心理の専門家。

●インクルーシブ教育※23の推進

インクルーシブ教育システムの構築に向け関係者との意見交換を行っています。また、保育協議会と幼稚園連合会の「専門的療育機関の設置を求める意見書」提出をサポート。市は設置に向け動き出しました。

※23 障がいのあるなしに関係なく、すべての子どもと一緒に学べる教育。

●シチズンシップ教育※24の推進

子ども議会の充実など一般質問や特別委員会で訴えています。身近な政治家である市議会議員の学校での講演を進めようとしたが、反対意見があり今期は断念。他自治体の事例を研究していきます。

※24 「主権者教育」とも呼ばれ、市民としての役割を果たせるようになることを目指す教育。

●小中一貫教育の推進

総務文教委員会の兵庫県小野市と姫路市の視察をもとに一般質問を行いました。小学校と中学校の教員の連携が大切です。将来的に小・中学校の校舎は施設一体型が有効であることを訴えました。「福生市立学校の在り方検討委員会」等で議員の意見として報告するように要望しています。

8-2 生涯学習

生涯学習の成果を地域に活かし、学び続けるための環境整備を訴えてきました。誰もが学び続け、「生きがい」をもち続けられるための環境づくりを推進します。

詳しくはコチラ
↓↓↓



●生涯学習関連施設の更なる充実

定例会の一般質問で**公共施設のWi-Fi環境の整備**を推進するよう強く要望し、実現しました。市内19の施設で段階的に運用開始。

●生涯学習の成果を地域や学校教育に生かす仕組みの構築

公民館や地域会館で行われる講座の充実と**地域への学習成果の還元**を一般質問や予算・決算審査などのあらゆる機会を通じて訴え、**実現**しています。

●多様な市民が学び続けるために必要な人材確保の推進

特別委員会でサークルなどの小集団の学び合いなどを進めるキーパーソンの人材確保と育成、生涯学習関連の市職員の育成を要望しています。

●地域の歴史や伝統文化の保護・継承

市が所有する刀剣や芸術作品の管理及び展示を積極的に進め、市の内外にPRするよう予算・決算審査などを通じて訴えています。

●地域スポーツクラブの充実

→子供たちや市民のスポーツ環境の充実

「部活動の地域移行※25」が国の政策として推進。受け皿となる地域スポーツクラブの充実など、多摩スポーツ議員連盟の活動を通じて国や東京都へ訴えています。西多摩地域のスポーツ関連施設を定期的に視察。

※25) 公立中学校の部活指導が、民間スポーツ団体や地域の人材に委ねられるようになること。



9 健康・福祉

市民の全てが健康で、高齢者や障がい者も「生きがい」をもって、安心して地域で暮らし続けるためのまちづくりを推し進めます。

詳しくはこちら



● 高齢者の居場所づくりや見守り体制の推進

高齢者の見守りを行う民生委員との意見交換を行い、一般質問でその人材確保などを訴えています。特別委員会等で老人クラブへの支援を訴えています。

● 在宅医療・介護・福祉サービスの強化

福祉事業の担い手である社会福祉協議会の職員らと意見交換を行うと共に充実強化を一般質問を通じ訴えています。

● 市民の健康づくり支援や健康寿命の延伸

福生市ゲートボール協会の事務局長、福生市柔道整復師会の顧問を拝命し、意見交換を行い、高齢者スポーツ、フレイル※26対策の充実を市に訴えています。

※26 加齢とともに心身の活力（運動機能や認知機能等）が低下した「虚弱」な状態を指し、健康な状態と日常生活で介護が必要な状態の中間の状態。

● 特定健診やがん検診の効率的・効果的な受診勧奨と受診率の向上

天理よろづ相談病院 放射線部 診断部門 部長 久保武氏より、がん検診及び受診率向上への取り組み、最先端のがん治療等についてご教授いただきました。

● 認知症対策の推進

会派より要望。認知症コーディネーターが配置され、関係機関との連携が図られています。家族との交流の場である認知症カフェを運営している介護施設への補助により民間開設が促進。

● 障害児及び特性のある子どもへの支援強化

保育協議会と幼稚園連合会の「障害児や特性のある子どものための専門的療育機関の市内設置及び関係機関との連携強化に関する要望書」の提出をサポート。一般質問で児童発達支援センターの設置を訴え、市は根本的な解決に向け計画の検討を開始しました。

● 広域医療体制の強化推進

会派より要望。東京都地域医療構想調整会議で外来医療の提供体制について協議され、計画に反映。副議長を務めた福生病院企業団議会において「自治体病院の経営悪化に対する継続的な支援を求める意見書」の提出を提案し可決。国及び東京都から更なる支援を受けることができました。

● 障害者雇用の促進

一般質問「障がい者施策について」で就労支援事業所が行う在宅訓練への支援を訴えています。



10 防犯・防災

市民が安心して「生きがい」ある生活をおくるため、人びとの信頼感や絆を醸成して地域力を高め犯罪に強いまちづくり、あらゆる災害に強いまちづくりを進めます。

詳しくはコチラ



● 福生駅東口飲食店街及び市域全体の防犯推進

一般質問等を通じて要望した防犯カメラ設置が実現。更に新たに地元飲食業組合と協力して裏通りに2台設置、その他、犯罪件数の多い福生駅東口商店街で米軍OSI※26、福生警察、地元町会、防犯委員会、福生市職員によるパトロールを実施。参加者は100人を超える防犯活動に発展しています。※27) 海外特別捜査隊 (Office of Special Investigations)

● 児童・生徒の登下校時における安全対策の強化

通学路の見守り員やボランティアスタッフと情報交換を行っており、学校付近の道路標示、側溝蓋などの補修を市に要望しています。予算審査で通学路見守り員の業務の質を維持し、また、不審者情報にも十分留意し、事業を確実に継続するよう要望しています。

● 避難所運営連絡会の充実

一般質問を通じ、避難所運営連絡会の充実および男女共同参画の視点で避難所運営を行うよう要望しています。

● 町会・自治会の地域力強化及び防災機能の強化

町会・自治会の自主防災組織としての考え方や役割、市の担当部署等の見直しを訴えています。防災家族会議の重要性を市民に伝えるため「広報：ふっさ安全安心まちづくりだより あんまち」で周知を図るよう要望。

● 様々な団体との災害時応援協定の締結促進

一般質問で感染性廃棄物や化学物質、医薬品などの特別管理一般廃棄物を処理できる事業者との協定締結を進めるよう訴えています。

● 豪雨対策・熱中症対策の充実

一般質問で暑熱対策と風水害対策の強化を要望しています。「水と緑」のまちづくりの推進と国の「地域気候変動適応計画」を令和5年に改定される「福生市環境基本計画」に組込むよう要望。

● 消防団や交通安全協会への活動支援の更なる充実

消防団に関する条例の一部が改正され、団員への手当が費用弁償から報酬になり処遇が改善。予算・決算審査で交通安全推進委員の人員体制の充実を要望しています。



10 基地対策

横田基地は無いことが望ましいものの、当面、基地は動かし難いものとの前提に立ち、市と共に現実的な対応を図ります。

詳しくはコチラ
↓↓↓



米軍OSI※との協力関係を構築し、軍人・軍属のマナーアップを訴えるとともに、騒音対策や安全対策の推進、航空機事故の防止など、国や米軍に対して議会を通じて迅速に対応します。

※海外特別捜査隊 (Office of Special Investigations)

基地に関する情報
収集と開示の強化

基地の態様変化に
対する対策の強化

軍人・軍属の
マナーアップ

騒音対策の強化

基地関連補助金での
周辺整備の充実

平成29年～30年は横田基地対策特別委員会の副委員長として、そして令和元～2年は委員として国に要請行動を行うなど、基地対応にあたりました。また、議会運営委員会の委員としてパラシュートの基地外落下やオスプレイ※28の配備等に対し迅速に対応してきました。「横田基地の基地機能強化に関する決議」を特別委員会において、私が提出し本会議において可決（令和2年7月27日）されました。議員個人としては、特に米軍OSIとの協力関係を構築し、「軍人・軍属のマナーアップ」を訴えるとともに、福生駅東口飲食店街の防犯パトロールを実現しました。

※28) 固定翼機でありながら、垂直に離着陸できるアメリカ軍の主力輸送機の変種。平成30年10月1日に横田基地に5機のCV-22オスプレイが配備された。2024年（令和6年）頃までに、更に5機配備され、計10機のCV-22オスプレイと約450名の人員が配備される予定となっているなか、令和3年7月20日、既に配備されている部隊に追加されるものとしてCV-22オスプレイ1機が2021年7月6日に横田飛行場に到着した。



+2 感染症対策

ワクチン接種や生活支援に関する情報提供や施策の審査等を行う特別委員会を議会として設置するとともに、市民の声を国や東京都へ届けます。

詳しくはコチラ
↓↓↓



● 市民生活、経済活動、社会活動への支援

西多摩8市町村と昭島市で構成する若手議員らで協力し、国と東京都へ要望書を提出しました。また会派から市民生活への支援等に係る要望書を提出しました。市民の社会活動（教育含む）に関する調査を行い、令和5年度の市政運営に向けた18の提言書を委員会としてまとめ議会で可決。市長と教育長に提出しました。

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会 第一回調査結果報告→



● 病院や医療従事者への支援

福生病院企業団議会において、国と東京都に対する「自治体病院の経営悪化に対する継続的な支援を求める意見書」の提出を議会で提案し、可決。続いて12月には、病院の構成市町である、福生市議会、羽村市議会、瑞穂町議会でもそれぞれ同一内容の意見書案を可決し、自治体間での連携が実現。国及び東京都から更なる支援を受けることができました。国より、東京都を通じ、医療機関に対し下記の措置が講じられ、公立福生病院に対しても支援が実施されました。

東京都新型コロナウイルス感染症医療提供体制緊急整備事業として（令和3年度）

①病床確保支援事業 27億8765万7000円 ②医療従事者特殊勤務手当支援事業 7千115万4000円

● 市民サービスの低下を招かないための迅速な議会对応

新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を議会として設置し副委員長に就任。コロナ禍においても持続可能な議会運営ができるよう「感染症対策マニュアル」の策定を提案し実現。

● 子育てや教育における感染症対応や支援策の推進

保育協議会と幼稚園連合会による「新型コロナウイルスのワクチン接種における保育関係者の優先接種に関する要望書」の提出をサポートし、保育・教育関係者の優先接種が実現しました。



近隣他市との 広域連携

少子高齢化がさらに進めば、基礎自治体の税収が減るのは必至です。国や都の補助金も減少し、市民が利用する施設の整備費用の捻出も難しくなります。そこで、持続可能な行財政運営を行い、市民サービスの低下を招かないよう、広域連携によるスケールメリットを活かす取組みが必要だと考えます。



多摩スポーツ議員連盟 2020年8月～

青梅市、あきる野市、羽村市、福生市、昭島市の議員からなる団体でそれぞれの体育施設を視察し、広域連携による施設の利用や共同設置などの研究をしています。部活動の地域移行や近隣他市との合同チームなど、さらにはスポーツ・ツーリズムなどについても調査研究しています。

25区若手議員の会 2015年4月～

25選挙区の議員からなる団体で、私は副会長を務めています。昨年は、夫婦別姓、個人情報保護法などをテーマに研修会を行い、議論を深めました。各議員が議員活動の中で得た知見に基づき議論し合い、政策提言等に活かす取組みを行っています。



広域公共交通検討会 2022年12月～

新たな議員間連携の取組みとして、あきる野市の村野栄一議員、羽村市の印南修太議員と広域公共交通検討会を立ち上げました。広域連携によるスケールメリットを活かし、財源確保が難しい中、移動手段をどのように確保し、更に発展させていくか研究していきます。意識の高いお二人の先輩議員とともに頑張っていきたいと思います。

市議会議員として、地元出身であることは必須条件です。しかし、それを克服したときに、どれだけすばらしい成果をあげられるのか、それを具現したのが佐藤弘治さんです。日野市出身。よそ者であるが故の強さ。それは、大局的な視野があること。その一つが広域連携。例えば、市境を超えた地域公共交通の取組などにも、積極的に取組んでいます。目の前の地元の課題、長期的な広域の課題、どちらの視点も持った佐藤弘治さんを応援します。

応援します!



議員活動の見える化



市議会議員になったばかりのころ、「市議会議員は何をしているのかわからない」といったお声や「選挙の時だけお願いに来る議員はもういない」という厳しいご意見をいただきました。議員は自らの活動を市民に伝える努力をする中で、自身の仕事を顧み、その過程で議員としての質を向上させることができると考えます。議会制民主主義の形骸化を防ぐためにも、議員活動の「見える化」を継続していきます。

議員活動の「見える化」

● 活動レポート「Satokoji File (サトコジファイル)」の発行

定例会ごとに作成し、地域の皆さんにお届けしています。「市議会議員は何をしているのかわからない」という声が多く寄せられたことから、少しでも議員の活動をお伝えできればと継続して発行しています。市民の皆さんが、興味関心がもてるような発行物の作成を心がけています。

● facebookなどSNS等による情報発信

facebookページ「市議会議員は毎日何をしているのか」では日常の議会活動や地域活動、市の事業やイベントなど、できる限りタイムリーに掲載できるよう心がけています。子育て世代や若い方々に伝えるツールとしてTwitter、Instagram、LINEなども活用しています。



● ホームページの運営

佐藤こうじオフィシャルサイトでは、1期目からの活動内容やプロフィール、市議会議員となった経緯などについて掲載しています。「サトコジファイル」のバックナンバーもダウンロードできます。 [佐藤こうじオフィシャルサイト](#)➔



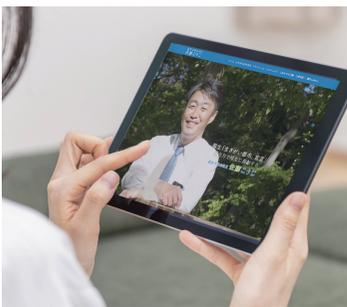
● note (ブログ) の運営

政策の進捗状況や視察報告など、また、活動内容や私の考えなど、SNSやサトコジファイルでは伝えきれない内容をテーマに基づいて掲載しています。 [note](#)➔



● メディア出演

FMたちかわ「I.S.M (イズム)」にレギュラー出演しています。「市議会議員は毎日何をしているのか」と題して、市議会定例会の様子や議会以外の活動内容や考え方、地域の課題やトピック等をお話しさせていただいています。現在のところ(令和4年度)第4日曜日16:00より放送。 [ご視聴方法](#)➔



議会の「見える化」 議会だよりをリニューアルするとともに、SNSによる情報発信を提案し実現しました。

● 行政情報アプリ『マチイロ』を活用

令和元年12月、『ふっさ市議会だより』をより多くの方々に読んでいただくため、行政情報アプリ『マチイロ』を活用し、配信することを決定。

● SNS (Twitter/facebook) の活用

令和2年2月、議会の活動状況をより迅速に、より多くの方々にわかりやすく発信するため、SNS (Twitter及びfacebook) を活用し、議会情報の発信を行うことを決定。



佐藤こうじ プロフィール

福生 **生きがい
都市** 宣言!

1968年 東京都日野市生まれ。日野市立第二小学校、日野市立第一中学校、東京都立南多摩高校、中央大学法学部卒

2015年 保険会社、繊維業界紙新聞記者、予備校講師、家業の建築業(型枠工事/二級建築士)を経て、**福生市議会議員に初当選**
議会運営委員会 委員/総務文教委員会 委員
議会改革に関する特別委員会 副委員長
横田基地対策特別委員会 副委員長/西多摩衛生組合議会 議員

2019年 **福生市議会議員に再選**
総務文教委員会 委員長/議会運営委員会 委員
横田基地対策特別委員会 委員/議会改革に関する協議会 座長代行
福生病院企業団議会 副議長/市議会会派 正和会 政調会長

2021年 議会運営委員会 委員長/総務文教委員会 委員
新型コロナウイルス感染症対策特別委員会 副委員長
瑞穂齋場組合議会 副議長/市議会会派 正和会 総務会長

生年月日 1968年10月28日(さそり座)

血液型 O型

趣味特技 カラオケ、卓球、読書(社会科学系等の本をよく読みます。漫画も好きです!)

家族 福生生まれの妻(介護福祉士)、社会人の長男・次男、大学生の長女

政治観 地方自治は民主主義の学校である(J. プライス)

座右の銘 処人藹然(しょじんあいぜん)
「人と接するときには和やかな態度で接すること」

地域活動 保護司/(社)不動福祉会理事/福生社交飲食業組合相談役顧問
福生市柔道整復師会顧問/福生市防衛協会事務局長
福生市ゲートボール協会事務局長/多摩西部議員校友会会員
ふっさボランティア・市民活動センター FVAC 運営委員
福生不動尊世話人/福生市本町町会顧問/市生会理事
本町神輿保存会世話人



福生市長
加藤 育男

応援します!

佐藤こうじさんは、地域のきずなを大切に、福生をより良いまちにするために、安全安心なまちづくりや教育問題、将来を見据えた広域行政に資する議員間連携など、幅広く日々精力的に取り組んでいます。市議会議員や保護司など、佐藤さんの様々な活動を通して得た知識と、福生を思う情熱は、「人を育み 夢を育む 未来につながるまち ふっさ」の実現のためにはならないものです。皆様の力強い御支援を心からお願い申し上げます。



佐藤こうじ後援会 事務局

TEL/FAX **042-849-2196**

✉ koji.sato.office@gmail.com

〒197-0022 福生市本町79

